

コシアブラ部位別¹³⁷Cs濃度の時期別変化

福島県林業研究センター 林産資源部

事業名	放射性物質除去・低減技術開発事業
小事業名	きのこ山菜類の放射性物質汚染メカニズムの解明と汚染低減対策
研究課題名	山菜類の放射性物質汚染動態の把握と汚染低減対策
担当者名	手代木徳弘

I 新技術の解説

1 要旨

原発事故以降、山菜類の出荷制限等が続き、売り上げも低迷している。環境からの汚染メカニズム解明したうえで、生産現場で活用できる汚染低減技術が求められている。コシアブラは近年人気のある品目だが、県内のほとんどの地域で出荷制限等が続いている。そこで、会津地方の同一箇所でもコシアブラ(樹高1.0~3.0m)を5月下旬5本、7月下旬5本、9月下旬3本、11月上旬3本、全木で堀取り、洗浄後、部位別(葉、樹皮、材、根(太)、根(細))に分割し、それぞれの¹³⁷Cs濃度をゲルマニウム半導体検出器で測定した。併せて105°Cで24時間乾燥を行い含水率を測定した。

(1) コシアブラ部位別¹³⁷Cs濃度の結果を表-1、図-1に示す。

5月下旬の葉の¹³⁷Cs濃度が7月下旬、9月下旬、11月上旬に比べて高い結果となった。

2 期待される効果

(1) コシアブラ部位別の濃度に加え、今後、樹体内での¹³⁷Cs量を把握することにより、汚染メカニズムの解明等につなげることができる。

4 活用上の留意点

(1) 今回は1地区での結果であるので、今後、調査地区数を増やし地域による差を調査する必要がある。

II 具体的データ等

表-1 コシアブラ部位別¹³⁷Cs濃度

	5月下旬			7月下旬			9月下旬			11月上旬		
	平均	標準偏差	検体数	平均	標準偏差	検体数	平均	標準偏差	検体数	平均	標準偏差	検体数
葉	10570	4900	5	2951	2150	5	2804	644	3	3405	—	1
樹皮	1121	399	5	1175	794	5	2181	1020	3	2568	378	3
材	447	157	5	154	92.4	5	394	104	3	582	85.4	3
根(太)	1145	693	5	773	599	5	1216	538	3	2183	877	3
根(細)	3642	1700	5	2501	2260	5	3050	1370	3	4924	2600	3

平均と標準偏差の単位はBq/kgDW

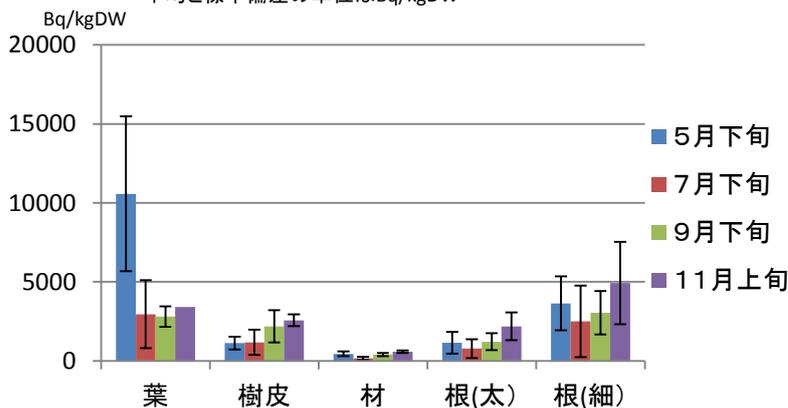


図-1 コシアブラ部位別¹³⁷Cs濃度



写真-1 コシアブラ採取状況

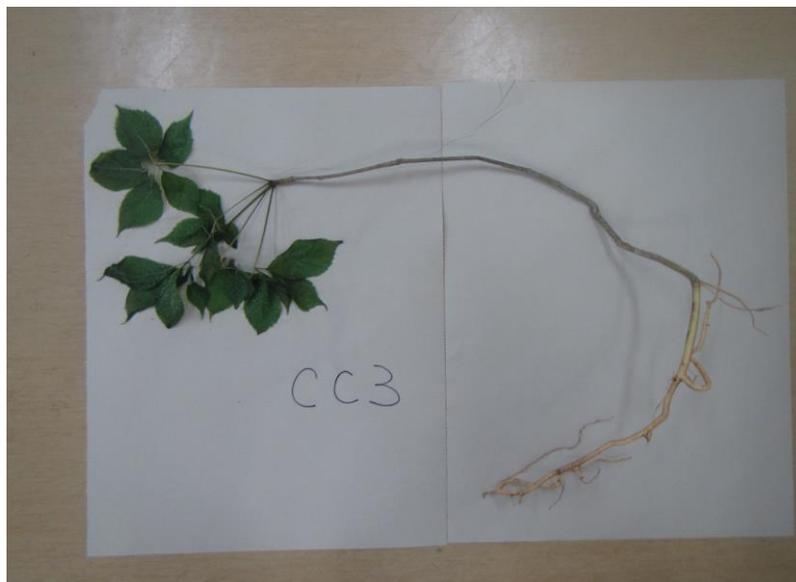


写真-2 コシアブラ検体

Ⅲ その他

1 執筆者

手代木徳弘

2 実施期間

平成30年度～34年度

3 主な参考文献・資料

(1) 平成29年度林業センター業務報告